



2020年8月21日

日本鉄道労働組合連合会

東海地方協議会「第29回定期委員会」開催

危機感を共有してこの難局を乗り越え

責任と自覚を持ってJR産業の未来を切り拓こう！

JR連合東海地方協議会は、7月31日、名古屋市内において、ソーシャルディスタンスの確保や検温、手指の消毒等の対策を施した上で、第29回定期委員会を開催した。

冒頭、挨拶に立った丸山知章議長は、「何よりも新型コロナウイルスに対し最大限の感染防止を図り、安全最優先で取り組む必要がある。JR本体のみならず、グループ会社においても、多くの分野で大打撃を被っているが、この



ダメージを克服し、JRが社会的役割を果たし続けなければならない。JR連合は、コロナ後の社会変容への対応策も含めて国をはじめとする要請活動を行っている。引き続き、JRの代表産別の中軸地域協議会として、組合員の負託にこたえる運動を全力で邁進していく」と決意を表明した。

委員会には、JR連合から今井孝治執行委員、中部交運労協から勝田覚副議長、JR東海ユニオン地方議員団の河合洋介愛知県議会議員が出席し、それぞれ激励と連帯の挨拶を行った。JR連合今井執行委員は、「コロナ禍によって労働組合の必要性がかってないほどクローズアップされている。今こそ『JR連合ビジョン』に基づく運動を通じて組織を強化し、すべての仲間が集团的労使関係にまもられる環境を築き上げていこう」と強く訴えた。

その後、各議案に対する審議がなされ、すべての議案が満場一致で承認された。そして、委員会宣言を採択し、丸山議長の団結がんばろうで締めくくられた。